

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成30年4月17日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立長南小学校 第6学年，全児童

実施児童数 66 人

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べて上位層がやや少なく下位層がやや多く分布している。
平均正答率（本校 66／泉佐野市 67／大阪府 68／全国 70.7）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べて上位層がやや少なく下位層がやや多く分布している。
平均正答率（本校 46／泉佐野市 51／大阪府 52／全国 54.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語A	特 徴 が み ら れ た 設 問	
【読む能力】 〈設問番号3〉 ○目的に応じて必要な情報を捉える (64.4/73.9) 【言語についての知識・理解・技能】 〈設問番号5〉 ○文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く (22.0/35.5) 〈設問番号6〉 ○日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う (83.1/90.4)	【言語についての知識・理解・技能】 〈設問番号8〉 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う イ(せつ備) (74.6/82.2) ウ(しょう毒) (67.8/82.2) エ(かん理) (57.6/65.0) オ(せつ極的) (45.8/51.4)	

国語B	特 徴 が み ら れ た 設 問	
【話す・聞く能力】 〈設問番号1一〉 ○話し合いの参加者として、質問の意図を捉える (76.3/82.5) 【話す・聞く能力 書く能力】 〈設問番号1三〉 ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる (23.7/33.8) 【書く能力】 〈設問番号2一〉 ○目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える (49.2/57.6) 〈設問番号2二〉 ○目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く (6.8/13.5)	〈設問番号2三〉 ○推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える (61.0/70.8) 【読む能力】 〈設問番号3一〉 ○目的に応じて、複数の本の文章などを選んで読む (37.3/49.4) 【読む能力 書く能力】 〈設問番号3二〉 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む (37.3/52.3)	

【国語】

- B区分の問題での正答率の低さと無答率が高いことが課題である。
- 説明するときの文章の組み立てなどについて丁寧に指導する必要がある。また、主語と述語の関係など、基本的な事項を正しく理解できていないので、作文指導の中で細かな添削を行い、正しい文章表現を身に付けさせる。
- 日頃から言葉で説明する場面を設定していく。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答率は全国と比べて7.5ポイント低く、特に図形領域に課題がある。

平均正答率（本校 56／泉佐野市 62／大阪府 63／全国 63.5）

「B区分問題」

- ・平均正答率は全国と比べて6.5ポイント低く、特に記述解答形式に課題がある。

平均正答率（本校 45／泉佐野市 48／大阪府 51／全国 51.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数A	特 徴 が み ら れ た 設 問
【図形領域】 ○設問番号7（1） 円周率を求める式として正しいものを選ぶ (27.1/41.6) ○設問番号6 空間の中にあるものの位置を正しく書く (59.3/73.5)	【数と計算】 ○1（2） 針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さがそれぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ (45.8/55.7) 【量と計算】 ○4（2） ウとエの2つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ (42.4/50.1)
【数量関係】 ○設問番号8 200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ (39.0/52.9)	

算数B	特 徴 が み ら れ た 設 問
【数と計算】 ○4（2） 横に並んでいる7つの数について、示された表現方法を適用して書く (47.5/59.5)	【数と計算・数量関係】 ○4（1） 「32, 40」の2つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を適用して書く (50.8/62.7)
【数と計算・量と測定】 ○5（1） 横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く (32.2/43.2)	【図形・数量関係】 ○1（2） 1つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く (37.3/48.2)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか。	34.9	33.9		1.0
算数の勉強は大切だと思いますか。	69.8	67.3		2.5
算数の授業の内容はよく分かりますか。	55.6	42.1	○	13.5
算数の授業で新しい問題に出会った時、それを解いてみたいと思いますか。	58.7	44.4	○	14.3
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	52.4	39.7	○	12.7
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	28.6	28.5		0.1
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか。	69.8	65.5		4.3
算数の授業で問題解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。	47.6	44.2		3.4
算数の授業で公式や決まりを習う時、その訳を理解するようにしていますか。	33.3	43.7	○	10.4
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	57.1	56.8		0.3
今回の算数の問題について、言葉や数、式を使ってわけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように回答しましたか。	60.3	70.6	○	10.3

【算数】

○長文や表の読みとりの問題や、記述解答形式の問題で無解答率が高く、正答率が低い。

○除法や割合、単位量あたりの計算に課題がある。

○公式やきまりの意味理解に課題がある。

○児童質問紙による肯定的な回答率が全体的に高いが、問題の正答率は低い。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率の中央値が全国に比べると低い。上位層が少なく、第1四分位付近が多い。
平均正答率（本校 52／泉佐野市 57／大阪府 57／全国 60.3）
- ・主として「活用」に関する問題より、主として「知識」に関する問題の方が平均正答率は高かったが、全国に比べると低い。
主として「知識」に関する問題（本校 68／泉佐野市 77／大阪府 75／全国 78.0）
主として「活用」に関する問題（本校 48／泉佐野市 53／大阪府 53／全国 56.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科「知識」	特 徴 が み ら れ た 設 問	
理科「知識」	【生命】 ○骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解する事に課題がある。 1(3)腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く (67.8/79.4)	
理科「活用」	特 徴 が み ら れ た 設 問	
理科「活用」	【生命】 ○人の腕が曲がる仕組みを模型に適用することに課題がある。 1(4)人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ (33.9/56.6)	【物質】 ○物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適応することに課題がある。 4(3)食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ (27.1/42.7)
	【エネルギー】 ○実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに至らなかった。 3(3)回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ (45.8/59.4)	○実験結果から言えることだけに言及した内容に改善しその内容を記述することが難しい。 4(4)食塩水を熱したときの食塩の蒸発について実験を通して導きだす結論を書く (16.9/35.9)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は好きですか	76.2	83.5	◇	7.3
理科の勉強は大切だと思いますか。	73.0	85.4	○	12.4
理科の授業の内容はよく分かりますか。	82.6	89.4	◇	6.8
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	57.2	64.7	◇	7.5
理科の授業で学習したことは、将来社会に出た時に役に立つと思いますか。	76.2	72.9		3.3
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	17.4	26.2	◇	8.8
理科の授業で、自分の考えを周りの人に説明したり発表したりしていますか。	54.0	54.3		0.3
理科の授業では、理科室の観察や実験をどのくらい行いましたか。	77.7	89.1	○	11.4
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。	63.5	75.2	○	11.7
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。	65.1	81.8	○	16.7
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかをふり返って考えていますか。	63.5	68.1		4.6

【理科】

○基本的な用語が身についていない。

○実験装置について、理解ができていない。

○観察や実験を行うことが好きと回答しているが、実際にはあまりできていない。

○理科は好きで大切である。社会に出た時に役立つと思っているが、職業に就こうとは考えていない。

○学習した内容や実験結果を自分の言葉で説明することに課題がある。

○記述式の正答率が低いのは、予想できたが選択式の間違いも多かった。

○文章を初めから最後まで読めばできるのにあきらめている傾向がある。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【自分自身について】	自分には良いところがあるという児童の割合が全国を上回っている。 将来の夢や目標を持っている児童の割合が全国を上回っている。	(1) 自分には、良いところがあると思いますか。 そう思う <54.0/41.2> (3) 将来の夢や目標を持っていますか。 そう思う <73.0/68.2>
【家庭生活について】	朝食を毎朝必ずとっている児童の割合が、全国と比べ下回っている。 毎日、同じくらいの時刻に寝ていない児童が全国よりも上回っている。 毎日同じ時間に起きている児童が全国を下回っている。	(7) 朝食を毎日食べていますか。 <68.3/84.8> (8) 毎日、同じくらいの時刻に寝ています。 全くしていない <11.1/5.7> (9) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。 <49.2/59.9>
【家庭学習について】	読書をする児童の割合が全国を下回っている。	(15) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、読書しますか。 全くしない <30.2/18.7>
【学校での学習の様子について】	本校では、系統立てて地域学習を行っている。それによって、地域の方と関わった機会があったという児童の割合が、全国よりも上回っている。	(19) 5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。 <65.1/40.1>

本校の取組

◎これまでの取組

【学習面】

(1) 少人数習熟度別指導

算数と国語を中心に、1つの学級を複数の教員で指導し、よりきめ細かな指導、発表や質問がしやすい環境をめざしています。

(2) 長南タイム（朝学習）

1時間目の授業が始まるまでの10分間を活用し、読書や漢字にとりこんでいます。

(3) サポートタイム（放課後学習）

金曜日の放課後、家庭と連携を取りながら、学習に課題があった子どもたちと学級担任が、個々の課題を克服するためにじっくり時間をかけて頑張っています。

(4) スキルアップルーム

5・6年生の希望者を対象とし、子どもたち自らが進んで自学自習する態度を身につけることができるように実施しています。

(5) 算数サポーター

算数の授業に入り込み、子ども一人ひとりによりきめ細やかな支援を行います。

(6) ノートの活用や工夫

課題が早く済んだ時などにできる僅かな時間を利用して、自分でとりくむことを決め、自学を進めています。また、ノートの取り方にも工夫しています。

【生徒指導面】

(1) いじめアンケート、生活アンケートの実施

(2) セカンドステップ

(3) 挨拶についてのキャンペーン（児童会中心に）の実施

◎これからの取組

(1) 少人数習熟度別指導

少人数習熟度別指導、基礎基本の定着、コミュニケーション力向上の取組を進めます。

(2) 長南タイム（朝学習）

漢字の定着を意識した取組を継続します。

(3) サポートタイム（放課後学習）

継続します。

(4) スキルアップルーム

継続します。

(5) 算数サポーター

継続します。

(6) ノートの活用や工夫

よい事例を紹介し、自学の楽しさやノートの工夫の便利さ等を感じさせるため継続します。

【家庭学習面】

・家庭での学習の仕方（質や量）について、定着を図ります。

【生徒指導面】

(1) いじめアンケート、生活アンケート継続します。

(2) セカンドステップ 継続します。

(3) 全委員会の児童（5・6年生）による挨拶に特化したキャンペーンを継続します。